

ティーチング・ステートメント

所属 理学療法学科

名前 井野 拓実

作成日 2020年9月9日

更新日 2023年3月22日

【責任】

保健医療学部理学療法学科での専門科目を中心として、教育研究活動を実施している。また初年度教育として「フレッシュマンセミナー」を担当しており、社会人基礎教育、大学生としての教養などについても担当している。

専門科目については、運動器系（整形外科系）、スポーツ系理学療法、運動動作分析、理学療評価学、治療学が主たる専門分野である。また卒業論文指導を通じて、研究や科学的思考の基礎を育むことも重要である。加えて、キャリア支援、就職相談、卒後教育、更にはスポーツ現場でのトレーナー支援や国内・国際大会（オリンピックなど）の社会貢献を通じた人材育成も重要な使命と捉えている。

【理念】

人口や経済状況が右肩上がりであった従前の日本社会とは異なり、生きることそのものが困難であったり、身を粉にして働くことに価値を見いだせなかったりする現代社会において、どのような価値観をもって生きていくのかを学生と共に考えることは、大学・社会人教育の場において重要であると考えている。単に、授業単位や資格の取得に終始した教育では、人のため社会のためにはならないと考える。また、医療人として「ひとに興味を持てる、ひとに貢献することに誇りを持てる」ような素養を醸成することもまた極めて重要であると考えている。

前述の如く、社会や個人には余力が少なくなってきたおり、コロナ禍を経て益々その傾向が進んだと思われる昨今、そのような背景もあり「個人主義（私生活主義?）」が社会に蔓延しており、「自分（および自分のまわり）さえ良ければよい」という価値観の跋扈に危惧を覚える。大学への愛着や自身の専門分野への誇りなどを持つことは、社会を大切にしたり、コミュニティに愛着をもったりする第一歩になると考えている。そのため、学生達の大学や専門分野に対する愛着、帰属意識を醸成することも、一教員として重視していきたい。たくさんの情報が手に入りやすくなった現在のテクノロジーやAI技術の活用などにおいても、上記は未だ達成不可能な要素であると思う。大学教育を通じて「ひとの育成」に力を入れていきたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するため、以下の方針と方法を実践していく。

「能動的に学ぶ力の養成」

- 実践、体験、課題解決などをテーマにした講義を実施し、アクティブラーニングを推進する
- 小テストや確認クイズなど、受け身のみの授業、時間を極力減らす
- 可能な限り、講師と学生の双方向型の授業を目指す
- 臨床見学や早期実習において、学生が自ら医療現場の課題を見つけ出すような問題設定を行う

「勉強、学修への動機づけ（学びが楽しいと思う）の重視」

- 実学・実践の重視
- 成功体験、改善の体験の機会 ⇒ 実戦や地域貢献を活用し、自分達の専門性や苦勞して準備した結果が人々の喜びに繋がることを体験させる
- 夢を語る、実践的な経験を語る、失敗談を共有する
- より advance な内容にも一部触れ、将来像を拡げる
- 楽しそうに授業をする

「大学・専門分野への愛着や帰属意識を高める」

- 良く遊び良く学ぶ
- 社会人としての付き合いも持つ
- 課題は減らすが質は高める
- すごい！と思ってもらえるような機会を増やす、多少の演出もする

【評価・成果】

- 授業アンケートにて、学生の満足度 100%を目指す
- 社会貢献や後進育成に関わる OBOG 達の多さは特筆すべき点と思われる
- 就職率の高さや入職先の充実
- 卒後の社会活動の参加度

【目標・アクションプラン】

- 学生達との課外活動に積極的に参加する
- 教育系の研修会、FDSD への参加（最低年 2 回）
- 卒後教育の講習会、研修会の開催（最低年 2 回以上）
- 授業や課題フィードバックの時間の充実
- 自身の理学療法士、スポーツトレーナーとしての研鑽
- 他の先生、分野の講義参観
- 学科 FDSD の開催